

国連 観光・文化京都会議2019

「将来世代への投資～観光×文化×SDGs～」

—「観光・文化京都宣言」で「京都モデル」を世界へ発信—

発行：第4回 国連世界観光機関(UNWTO)/ユネスコ
観光と文化をテーマとした国際会議 2019京都会議実行委員会



国連 観光・文化
京都会議 2019

第4回 国連世界観光機関(UNWTO)/ユネスコ 観光と文化をテーマとした国際会議 <概要>

- 日 程 令和元年12月12日(木)～13日(金)
- 会 場 国立京都国際会館
- テー マ 将来世代への投資～観光×文化×SDGs～
- 参 加 者 各国の観光・文化大臣など政府関係者、国際機関関係者、民間事業者等
- 参加国数・人数 約70箇国 約1,500人(2日間延人数)
- 主 催 国連世界観光機関(UNWTO)、国連教育科学文化機関(UNESCO)
- 地元主催者 観光庁、文化庁、京都府、京都市

1日目:12月12日(木)

- 9:30 開会式
- 10:00 基調講演(彬子女王殿下) <テーマ:Feel the Real>
- 10:30 閣僚級会合
<テーマ:文化観光のための、革新的な政策と取組モデルの推進>
参加国:8箇国・9名
日本(上野通子 文部科学副大臣、門博文 国土交通大臣政務官)、
カンボジア、クロアチア、チェコ、ガーナ、ギリシャ、ギニア、ナイジェリア
- 14:00 特別講演(門川大作京都市長)
<テーマ:京都モデルでSDGsを達成
—観光と文化の力であらゆる社会的課題を解決!—>
- 14:30 分科会1
<テーマ:文化の伝播・継承による、観光の質の向上と相互理解>
登壇者:妙心寺退蔵院 副住職 松山大耕氏 他



2日目:12月13日(金)

- 9:00 分科会2
<テーマ:地域コミュニティの強化のための観光マネジメントの再構築>
登壇者:株式会社小西美術工藝社 代表取締役社長 デービッド・アトキンソン氏 他
- 11:00 分科会3
<テーマ:文化観光を持続可能に発展させるための能力強化>
登壇者:第8代ユネスコ事務局長 松浦晃一郎氏 他
- 12:30 観光・文化京都宣言
- 12:50 閉会式



● 協賛・協力 ●

全日本空輸(株)、VISA(株)
(株)ぐるなび、西日本旅客鉄道(株)、京阪ホールディングス(株)、(学)大和学園
DESIGN WORKS ANCIENT(株)、(株)フクナガ、(株)JTB、(株)鼓月、(株)京都駅観光デパート
(株)駅ビル開発、彌榮自動車(株)、コカ・コーラボトラーズジャパン(株)
(株)ハトヤ瑞宝閣(バイカル)

会議の詳細は国連のイベントページをご参照ください(英語のみ)。 <http://tourismandculture.cvent.com>

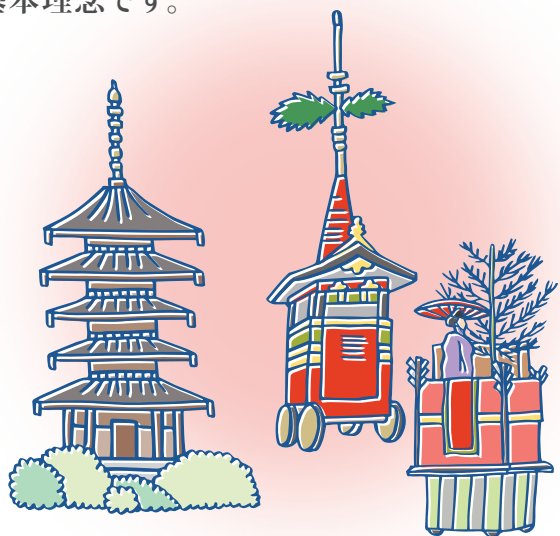


— 京都は、観光のために作られた都市ではありません。

寺院、神社、四季折々の自然、景観、食、文化芸術、そして「暮らしの美学」「生き方の哲学」といった価値観も含めた「暮らしの文化」が京都の魅力となり、観光面でも評価されてきました。

また、京都は歴史的に「地域コミュニティ」の結びつきが強く、まちづくりや文化の担い手として、重要な役割を果たしてきたまちでもあります。

この「文化（暮らしの文化）」と「地域コミュニティ」が持続的に継承・発展していくために、「観光」が理想的な“プロモーター”となること。—それが、観光と文化の「京都モデル」の基本理念です。



観光と文化の「京都モデル」

地域の絆がつなぐ文化、文化がつなぐ地域の絆

「文化（暮らしの文化）」の担い手は「地域コミュニティ」です。そして、自らが担う文化が、多くの観光客から高く評価されることで、コミュニティに誇りが生まれ、絆の強化につながり、それが文化の継承・発展の一層の原動力となります。



この京都モデルは、「国連 観光・文化京都会議 2019」において、京都市長による特別講演「京都モデルでSDGsを達成—観光と文化の力であらゆる社会的課題を解決!—」の中で発表されました。会議の成果として取りまとめられた「京都宣言」に、この「京都モデル」の活用の推進が盛り込まれました。⇒「京都宣言」の詳細は裏面へ

文化

地域
コミュニティ

好循環

観光

“プロモーター”

文化への還元、観光への還元

観光の対価として観光客や事業者から支払われる収益が、文化の継承・発展に充てられます。それにより、文化が一層の魅力を増し、更なる観光の振興へとつながります。

文化とその担い手への敬意—相互理解と平和へ

観光客は、地域固有の文化やその担い手であるコミュニティに触れる中で、好奇心や憧れ、敬意を抱きます。また、新たな文化や価値観によって、自らの生き方・暮らし方も豊かにすることができます。これが文化の相互理解や、平和の実現にもつながります。



行政による下支え

行政による下支え

行政が、文化と地域コミュニティを大切にするまちづくりを進めることはもとより、その継承・発展に向けて観光を上手に活用し、好循環を生み出すためには、様々な下支えを行うことも重要です。例えば・・・

コミュニティの活動の下支え

「暮らしの文化」である祇園祭では、環境に配慮した「ごみゼロ大作戦」や、収益向上のための有料観覧席の設置等、コミュニティの活動を持続可能にする取組を推進

観光課題の解決

観光が文化の消費者となることのないよう、混雑緩和に向けた観光客の分散化、マナー啓発など、観光客の急増等に伴う課題の解決に資する取組を実施

担い手の育成

観光に携わる方の、労働環境や社会的評価を向上し、誇りを持って働ける取組を推進、観光の担い手＝文化の担い手の育成を支援

安心・安全の確保

感染症や災害等の危機発生に際し、感染症拡大防止のための観光自粛要請や衛生対策の徹底など、市民・観光客双方の安心・安全を最優先に確保する取組を実施

UNWTO世界観光倫理憲章*の内容を踏まえた、観光事業者等が守るべき行動規範も必要

*世界観光倫理憲章…1999年10月、第13回UNWTO総会において採択された、各国政府、観光業界、地域社会、旅行者等の全てのステークホルダーが、責任ある持続可能な観光を実現するための規範



まとめ

観光と文化の「京都モデル」とは・・・

- ✓ 観光は、文化と地域コミュニティの継承・発展に向けて、好循環を生み出す“プロモーター”となるべきもの。
- ✓ また、この好循環を生み出すために行政は観光課題の解決や、担い手の育成など、下支えを行うことが必要。

感染症等の危機管理、市民・観光客の安心・安全の確保が大前提

➡ これらの理念及び実践により、**観光と文化の力であらゆる社会的課題を解決し、SDGsの達成**を目指すもの

観光・文化京都宣言「将来世代への投資」(全文)

我々、国連世界観光機関(UNWTO)及び国連教育科学文化機関(ユネスコ)加盟国の観光・文化行政の代表、並びに、国際機関、民間部門、学術団体、地域及び先住民族コミュニティの代表は、2019年12月12日から13日にかけて京都で開催された、第4回「国連世界観光機関(UNWTO)/ユネスコ 観光と文化をテーマとした国際会議」において、三笠宮彬子女王殿下の御臨席を賜り、観光庁、文化庁、京都府及び京都市の協力の下、会合を行った。

＜以下を想起する＞

- 持続可能な開発目標(SDGs)への観光と文化の貢献を強化し、そのプロセスを促進するための優先事項の設定を求めるものである、観光・文化イスタンブール宣言—全ての人の利益のために—(2018)、観光・文化マスカット宣言—持続可能な開発の促進—(2017)、観光・文化シェムリアップ宣言—新たなパートナーシップ・モデルの構築—(2015)
- 2015年9月25日の国連総会決議(70/1)「我々の世界を変革する—持続可能な開発のための2030年のアジェンダ」及び17の持続可能な開発目標
- 1999年にUNWTO総会で採択された「UNWTO世界観光倫理憲章」
- 2005年に採択された「文化的表現の多様性の保護及び促進に関するユネスコ条約」、2003年に採択された「無形文化遺産の保護に関する条約」及び1972年に採択された「世界の文化遺産及び自然遺産の保護に関する条約」
- 先住民族言語の危機的状況に対する意識を高めるとともに、言語の保護、復興、促進に向け、世界各地で協調した行動を起こすべくステークホルダーと資源を動員するため、2019年を国際先住民族言語年(IYIL2019)と宣言した国連総会決議(A/RES/71/178)
- 観光の役割を最大限に活用し、先住民族コミュニティ内に負の影響を与える可能性を緩和することを目指して、2019年にUNWTO総会で採択された先住民族観光の持続可能な開発に関する勧告
- 2019年に日本の北海道倶知安で採択された「G20 観光大臣宣言」

＜以下に関する我々のコミットメントを再確認する＞

1 以下の方法により、最先端の文化観光プロジェクトにおいて、革新的な政策とガバナンスモデルを実践すること

- 1.1 観光地、企業及び地域住民に測定可能な効果をもたらすために、SDGsに沿った戦略を取り、革新的な技術を活用するとともに、観光からの利益が文化資源とコミュニティの福祉の向上に確実に還元されるようにする。
- 1.2 異文化間の対話、文化の多様性への理解、社会的結束の強化のために、国の枠を超えたパートナーシップを促進し、観光部門と文化部門の間で共通の目的を定める。
- 1.3 有形及び無形の文化遺産を守り、文化的表現の多様性と各文化の固有の価値を促進し、保護するための措置を強化する。
- 1.4 文化・自然資源、特にユネスコ世界遺産リストに登録されている遺産の利用における、観光の成長による悪影響を緩和するための政策を展開するとともに、オーバーツーリズムに関連した懸念と圧力の高まりに対応するために、季節、地域、時間における観光客の分散化を促す戦略的な観光地マネジメントシステムを適用する。
- 1.5 UNWTO世界観光倫理憲章の実行、及びその関連施策、行動規範、ガバナンスシステムの採用により、観光部門における倫理意識を強化する。
- 1.6 観光、文化及び地域コミュニティの関係を適切にマネジメントすることに関する「京都モデル」の活用を推進する。

「京都モデル」の理念や取組が高く評価され、宣言へ盛り込まれました

2 以下の方法により、文化の伝播と相互理解による観光の質の向上を図ること

- 2.1 文化が観光地にもたらす付加価値や、観光商品の多様化、社会経済的発展及び持続可能な成長を強化するうえでの、歴史的文化遺産と創造性の役割について、ステークホルダーの意識を高める。
- 2.2 祭りや教育、意識喚起、文化施設や精神的な施設を通じて、文化の多様性と異文化間の対話を高く評価する。
- 2.3 観光の成長の継続、都市化や移住の進展が、文化の伝播にどのように影響しているかの知見の不足に対処する。
- 2.4 将来世代に向けて、観光を通じて文化を伝播するシステムを強化するために、伝統的な知識の実践者や担い手が集う、コミュニティ中心の戦略を創出する。
- 2.5 UNWTOによる「先住民族観光の持続可能な開発に関する勧告」を実践し、コミュニティ、観光地及び観光事業者間のパートナーシップを拡大し、観光客の責任ある行動を導く。

3 以下の方法により、地域コミュニティの強化と責任ある観光の推進に向けた観光マネジメントの再構築を行うこと

- 3.1 最新のノウハウ、デジタルソリューション、包摂的なアプローチを組み合わせたマネジメントシステムを確立し、観光客の体験の向上とともに、コミュニティのニーズ、適切な解説及びフェアトレードを尊重する。
- 3.2 文化の付加価値、観光客の流れ、利益の公平な分配を図りつつ、文化的投資が成功する環境を創出するための測定システムを構築する。
- 3.3 特に女性と若者に関して、イノベーション、地域の起業家精神、創造性、ものづくり及びコミュニティの強化を可能にするという観点で、観光地に適した戦略的フレームワークを強化する。
- 3.4 地域コミュニティ及び官民の参加を通じて、観光地全体が都市計画及び観光地マネジメントに関わることで、日々の生活に根差した伝統と文化的表現の担い手である住民の意見が確実に反映されるようにする。
- 3.5 観光事業者や観光客を対象とする、地域の文化的価値及び財産を尊重することを目的とした、豊かかつ教育的な情報を普及させる。

4 以下の方法により、文化観光の持続可能な発展と共有価値のより良い理解に適した能力強化を図ること

- 4.1 持続可能性、起業家精神、スキルマッチング及び総合的な文化観光の競争力へ大きく貢献する、人材を育成し、人材の維持を奨励する。
- 4.2 文化観光の魅力と競争力を多様化するために、能力開発のための新しい技術の活用を行う官民のパートナーシップを支援する。
- 4.3 クリエイティブ産業と遺産に関する教育、育成及び研究を強化し、それによって新たな雇用を創出し、文化に通じた専門家を育成するために、観光地、学術界及び民間部門の間の連携を図る。
- 4.4 異文化間の対話や、国際協力、平和に貢献する、文化的なテーマに沿った観光ルートに関する育成課程を提供することにより、観光客の少ない地域における人材と持続可能な開発に投資する。
- 4.5 博物館などの文化施設を活用して、観光客と住民の双方を、地域の文化と伝統により深く関与させる。

我々は、人種、信条、各国に固有の社会体制の違いを超えて、異なる文化的価値を持つ人々同士の、平和と相互理解に寄与する観光の偉大な可能性を信じる。我々は、その大きな望みに対し有意義な貢献を行うこの会議のために、温かいもてなしと素晴らしい手配を行ってくれた日本政府及び自治体、そして京都の人々に対し心から感謝申し上げる。

2019年12月13日、京都